

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.49 (夏号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成 24 年 8 月 10 日発行

自然観察会案内

参加無料

アサギマダラ マーキング会

アサギマダラマーキングの季節となりました。今年は旧濁河スキー場で行なう予定です。林間コースをたどって頂上までの予定です。一部急斜面もありますがほとんどなだらかなルートです。大部分草地ですが、水が流れ湿地の場所もあるので長靴が便利です。

期 日 平成 24 年 9 月 2 日 (日) 少雨決行

集合場所 午前 8 : 0 0 「道の駅・ひだ朝日村」(朝日町)

集合後、乗り合わせて旧濁河スキー場へ移動。

15:30 頃「道の駅」にて解散予定

持 ち 物 捕虫網、油性フェルトペン(黒・細書き用)、メモ用紙、
弁当、飲み物、長靴、日除け対策・雨具も忘れないでネ

観察指導 鈴木俊文 氏 (岐阜県昆虫分布研究会)

問い合わせ 宝田延彦 09012314630 Fax0577-34-1287

公開講座 自然談話室 学習会

『生物多様性ひだたかやま戦略』『実施行動計画』

6 月から始めた学習会です。野生生物の保護の現状は。具体的な行動計画とは。

第 3 回 8 月 3 1 日(金) 高山市民文化会館 19 時より

◎ 野生生物の保護・管理問題について 話題提供者 小野木三郎・直井清正

予告：第 4 回 9 月 2 1 日(金) ◎ 生物多様性の普及啓発問題について

第 5 回 1 0 月 2 6 日(金) ◎ これまでの取り組みとまとめ

里山をめぐる人と生き物の関係

— トヨタテストコース開発からサシバの保全 —

大畑 孝二 氏 （公財）日本野鳥の会レンジャー
豊田市自然観察の森所長

豊田市自然観察の森

豊田市は名古屋から一時間位のところにある自動車の町である。以前は平野部の工場地帯だったのが、3年くらい前に合併して人工林を沢山かかえる町となった。人口は42万人ほどで、中山間地を持つ町である。昔ながらの神社や農村歌舞伎の残る町でもある。

自然観察の森は約30haで昔は、周辺には田んぼや畑のある地域だったが、今は市街地となっている。観察の森には自然観察のための

色々な環境があり、ネイチャーセンターが併設されている。ここでは日本野鳥の会のレンジャーによる環境学習が行われている。

日本には自然を保護してそこで色々な事を守るという施設、「サンクチュアリ」が無かったので、是非日本にサンクチュアリが必要と言うことで、日本野鳥の会でお金を募り1億円ほど集まり苫小牧のウトナイ湖に作った。その後「福島市小鳥の森」を市がつくり、日本野鳥の会の福島県支部が施設運営している。それを受けて国の事業でアーバンサンクチュアリ計画、都市近郊の自然を守っていかうという計画で、全国10か所にモデル地区ができ、その8番目が豊田市自然観察の森である。ここの施設は、当初野鳥の会はノータッチだったが、2003年度から、野鳥の会のレンジャーが配置され、2006年度から指定管理者制度で、野鳥の会が運営することになった。ここはため池あり休耕田ありという地域で、森にはコナラ・アベマキ・ツブラジイなどがある。この中の休耕田ではボランティアが子どもたちを集めて生き物を捕まえたりして学習をしている。（学習後は放す）

また、休耕田を歩いていたらアライグマの足跡があった。北海道で駆除していたので駆除方法を聞いてみたら、キャラメルコーンがいいということで試してみたら罠にかかった。それを剥製にした。外来生物が多く生息し、その駆除などの活動も行っている。

2010年に新しいネイチャーセンターはオープンし、旧ネイチャーセンターは、標本資料館として、植物や昆虫標本を中心に収集、保存活動を行うことになっている。

自然観察の森は、10人のスタッフとボランティアグループで運営している。また、豊田市に自然愛護協会というグループがあり、豊田野鳥友の会、豊田昆虫友の会などが加盟している。豊田市の行政と連携を組みながらやっている。また、名城大学に鳥の先生が3人くらいいて、学生の卒論や修論の研究フィールドとして利用してもらっている。

私が赴任した当初は、昔サギソウがあったが無くなったからといって園芸種の物が植えられていた。カワニナも色々な種類のカワニナを関係なしにホテルの餌として持ってきていた。ミズバショウが休耕田に植えられてもいた。人気のある植物なので大切にされており、抜くのに大変だった。盗掘や山菜採りはいくら言ってもきりがない。

現在は、「持ち出さない。持ち込まない」を徹底しているが、かつて入れこんだものが除去しき



れないで残っている。

ボランティアグループも少しずつ立ち上がってきて、里山管理的な活動・自然ガイド・調査などの活動を行っている。養成講座を行いメンバーを増やしている。

トヨタ自動車テストコース計画の問題点

豊田市と岡崎市にまたがる地域にトヨタ自動車がテストコースと研究施設棟をつくるという計画がある。660ha くらいの里山での大規模な開発計画であるが、だれも文句を言わない。豊田市で働いている人の6～7割がトヨタ系で働いているので、文句は言えない企業城下町的な状況である。20年前にも同じようなプランがあった時には、地域住民の猛反対で取り消しになったが、今回は基本的には地主の了解がとれている。というのは中山間地域の典型的な地域で、農業の後継者がいない。開発によりお金も入るし、地域の活性化につながるのではないかという期待の声が上がっている。

東京在住で岡崎市に土地を所有している人で一人反対している人がおり、愛知県の方は「適正な金額で売rinaさい」と訴えている。愛知県の企業庁が土地を買収して地ならしをして、トヨタに売るという仕組みで、一企業に行政が加担するのはおかしいのではないかとということで地主は反対している。現在も控訴裁判が続いている。

敷地面積自体は660ha であるが、改変面積は、270ha なので周辺地域はかなり残り、そこでヤマセミやヨタカなどの希少種の保全策を提案している。

当初、渥美半島に企業庁が造成している企業用地があるので、そこではいけないのかという提案をしたが、近くの山から丸見えなと海のそばだから風がある為いけないと拒否された。

ここには国の絶滅危惧種のミゾゴイが繁殖しており、国際自然保護連合のレッドリストにも入っている。この鳥が繁殖するのは世界中で日本だけで、冬は東南アジアへ渡って行く。世界中で約1000羽位と大変な希少種である。谷地形の雑木で営巣し、休耕田や沢で餌をとる。夕方にボーボーとかなり大きな声で鳴く。連休の初めころまでに鳴きやんでしまうので確認はしにくい、非常に数が少ない鳥である。

職員のために新東名のサービスエリアからテストコースまでアクセス道路を作る計画があったが、これがまた大きな自然破壊を伴うため私たちの反対で中止になり既存の道路を整備することになった。

テストコースや研究施設を作って、周辺の人たちの仕事として食堂などでのお手伝いがあるかもしれないが、かつて日本では第一次産業に従事していた人が、田舎から大都市に仕事に出ていった為に日本の農村から人がいなくなったし、トヨタ自動車も昭和35年に工場をつくって周辺部分から人を集めた。そういう経緯を考えると今回もトヨタのテストコースで働くようになったら、周辺から人がいなくなるのではと言う人もいる。本当に地域の活性化に繋がるかどうかは分からない。

ただし、トヨタ自動車では有機米によるブランド米をつくって地域の活性化により水田農業の後継者を作り、水田環境を維持することでサシバの保全につなげようとしている。

テストコース開発問題に対応してきた、愛知県野鳥保護連絡協議会としても要望書、意見書、監視委員会への参加などのアクションをしているが、里山の問題をどうとらえるかはむずかしい。人

問 題 点

- 1、きわめて巨大な開発
- 2、本当にテストコースが必要なのか？
- 3、どうしてもここに必要なのか？
- 4、絶滅危惧種がたくさんいる
- 5、アクセス道による環境破壊も馬鹿にできない
- 6、愛知県企業庁が買収、造成を実施
- 7、企業庁職員の給料はトヨタ自動車が負担
- 8、豊田市、岡崎市の職員が買収
- 9、雇用の場が生まれる？

が手を加えないと自然は本来の植生に戻っていくだけなので、税金をつぎ込んで何がなんでも元の里山を作る必要はないという考えが豊田市にはある。

サシバのすめる森づくり

サシバは蛙や蛇などを食べるタカの仲間で、里山が無くなるといなくなる鳥なので、サシバを指標にして里山の環境を守っていく活動を行っている。サシバは丘陵地帯に多く住み、森林と

サシバの好む環境

- 1、森林と水田が接する部分が多いことが一番重要
- 2、森林の面積が広いことが次に重要
- 3、森林と草地が接する部分が多いことが3番目に重要

田んぼがある環境が必要で、2006年に国のレッドリストに入った鳥でもある。自然観察の森では2004年の調査でサシバが繁殖していたが、今はなくなった。そのため休耕田の草刈りをし、水をためカエル類が産卵できる環境づくりを行い、サシバの餌を増やすことを行っている。

豊田でのサシバ生息調査で、無人カメラによる餌を見るとカエルはもちろんだが、トカゲ、ムカデなどが多くを占めていることがわかった。また行動圏調査なども行なっている。

サシバの保全活動を実施しているところに千葉県佐倉市、野田市、神奈川県小田原市、などがあるが、栃木県市貝町は「サシバの里」を商標登録して町おこしをしている。

外来種問題と獣害と過疎問題

自然観察の森でもオオクチバス、ブルーギル、ウシガエル、ソウシチョウ、ヌートリア、アライグマなどの外来生物がいるので駆除活動を行なっている。ため池の水を抜いて市民参加で駆除しているが完全に駆除できないので何回も行なっている。

豊田市でもイノシシによる獣害が多くイノシシ用のおりを設置しているが、おりにクマが入ってしまうこともある。かかってしまったクマの対応が課題になっている。

愛知県内で捕獲されたイノシシとシカを活用したオリジナルのジビエ料理の選出する行事を愛知県の委託でNPOの団体が開催している。

矢作川流域では森の健康診断という企画で市民が森に入って調べ、間伐を行って森を健康にしようという活動を行なっている。山の荒廃を防ぐ知恵として間伐した木材に対して地域限定の地域通貨を発行して地域の活性化を図っている地区もある。 (2012・2・18、高山市民文化会館)

豊田市自然観察の森、サシバのすめる森づくり、日本野鳥の会などの活動をもっと知りたい方はホームページをご覧ください。 <http://www.toyota-kansatsu.com/index.html>



第4回
飛驒高山

山仲間が美しき自然を捉えて贈る

山岳映画の夕べ

【共催】飛驒山岳会・山岳映画サロン

9 / 6 (木) 2012 【開場】18:00 【上映】18:30~21:00

【開場】高山市民文化会館 小ホール (入場整理券が必要です。)

☆整理券は高山市民文化会館、アウトドアショップ KONG, 高山市総合福祉センターにて)

※入場は無料ですが500円程度のチャリティーにご協力ください。

お問い合わせ — 山岳映画上映実行委員会事務局 古滝雅之 TEL 0577 - 34 - 1311

自然観察会（5月27日・主催：飛騨高山ふるさとを歩こう会）

『平湯の自然 — 平湯大ネズコ～平湯大滝 — 』



集合場所の駐車場に着くと辺りから野鳥が弾むように囀っているが、名前が分からずMさん、Sさんにキビタキと教えてもらう。しかし林の中で声はすれど姿は見えず。探すのはあきらめて堤防の脇を散策しながら木々に目を向けると若葉のミズナラ・トチノキ・ダケカンバ・カツラ・サワグルミ、林床にはニリンソウ・ベニバナイチヤクソウ・もっとましな名前を付けて貰いたいウバユリ・ウワバミソウ・イラクサなど。

しばらく歩くと案内表示に「オオネズコまで500m」。蛇行しながら歩くとオオルリの声が頭上近くで聞こえるが姿は見えず残念だ。しばらく歩くとカラマツ・ウダイカンバ・コシアブラなどの明るい林の中にどっしりとしたオオネズコに着く。説明板に「樹齢1000年。樹高23m。幹周7.6m」よくぞ長生きしたもんだとつぶやく。小休憩のなか下田さんから年輪とか木の性質などの話を聞く。

平湯大滝に向かって下って行きニリンソウの群落の途切れたところで昼食。山太りしそうなくらい、あれやこれやとご馳走を戴いていると5m先をカモシカが横切り、かしっぱ(カケス)は小枝から小枝へとゆっくりと移動していく。数年前の観察会で乗鞍から平湯スキー場へと歩いてきた尾根を眺めながら大滝へ大滝の落ち口にはまだ雪が残っていた。（佐藤八重子）

「山・自然・人と酒」を語り歌う会

2012年10月7日(日) 開場13:00／開演13:30 入場券500円

高山市民文化会館 小ホール ※詳しくは同封のチラシにて

平成5年に日本は「生物多様性条約」を締結しました。その条約に基づき「生物多様性国家戦略」が策定。現在「第三次生物多様性国家戦略」に改定されています。

その後平成20年に「生物多様性基本法」が制定され、この中で各地域での戦略（地域戦略）の責務が定められました。

高山市では平成7年に「高山市環境基本条例」が制定され、それに基づき「高山市環境基本計画」が策定されています。この計画は、高山市の指針として策定された「高山市第七次総合計画」の環境施策面です。この「高山市環境基本計画」の理念に基づく個別計画のひとつとして『生物多様性ひだたかやま戦略』を策定しました。

『生物多様性ひだたかやま戦略』には「基本構想編」、その具体的な取り組みとして「実施行動計画編」が策定されています。

※「生物多様性ひだたかやま戦略」（基本構想編）（実施行動計画編）は高山市のホームページでも公開されています。ダウンロードして是非読んで見て下さい。高山市→生物多様性

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会の歩み・4

《講師当の肩書きは当時》

平成15年（2004年）続き

- 7月20日 「くらがね通信・No13」発行
- 8月 2日 乗鞍岳自然観察会
- 8月12日 公開講座・「乗鞍今昔」 伊藤 茂（岐阜県山岳連盟会長）
- 9月 9日 公開講座・「乗鞍信仰」 藤本 健三（文化財保護協議会）
- 9月28日 乗鞍利用実態現地視察・自然観察会
- 10月15日 公開講座・「乗鞍の気象」 川村 孝一（元高山測候所所長）
- 10月20日 「くらがね通信・No14」発行
- 11月 5日 公開講座・「乗鞍とともに」小笠原 昌一（元乗鞍郵便局員）
- 11月29日 環境講演会・「飛騨山脈と乗鞍岳の生い立ち」
講師：岩田 修（飛騨地学研究会）
- 12月 9日 公開講座・「乗鞍を渡るタカ」 熊崎 詔之（日本野鳥の会岐阜県支部研究部長）

会員状況

平成24年7月末会員数 一般 96名、団体 4団体

■ 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円
 あなたの知人、友人に
 入会をおすすめください
 ・ 郵便振替 00800-8-129365
 ・ 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第49号（夏号） 平成24年 8月 10日発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者：宝田 延彦 E-mail: nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編集者：住 寿美子 TEL 0577-34-7237

表紙写真提供：小池 潜

印刷：アドプリンター